

重点目標 (めざす姿)	2学期の取組状況	評価1	評価2	今後の改善策 (いつ・誰が・何を・どんなふうに・わらう子どもの姿)	学校運営協議会による評価・感想
1 組織的な 学校運営	【教職員①87%↑】 校訓「誠実・自強・規律」の見える姿をゴールとし、「チーム学校」として学期ごとのキーワードを掲げ、「自律」を重要視しながら重点的な取組のPDCAを試みてきた。定時退勤日を増やすなど、業務の平準化・スリム化を図りつつ、運営委員会でねらいや方針を協議し、3部会において各主任の指導・助言の下、ロードマップを確認しながら取組を進めた。	A	B	PDCAが機能するべく、各学期のキーワードを設定することは、年間の目標実現に向けたスモールステップとして分かりやすく、軸としてもふれにくく、さらに各月の生活目標とも連動するため、各部会の取組も方針等がたやすく、児童の成長につながる実践とすることができた。ただ、コロナ禍や職員の入れ替わりなどでイレギュラーが起りやすかったことは否めず、計画的な実践や組織的な取組という視点ではさらなる検証が求められる。	・コロナ禍にあっても教職員の工夫が感じられる。 ・「当てはまらない」と答える児童への支援や手立てをしっかりと行っている。 ・「やや当てはまる」が多いが、「当てはまる」と自信をもって答えられるよう期待する。
	【児童②84%↑】【保護者②90.1%↑】【教職員①98%↑】 担任は自学級の状況について情報交流を積極的に行い、「全ての職員で全ての児童を育成する」意識が形成されている。保護者との連絡を密にしながら専門機関とも連携し、面談を行うなど、個に応じた指導で児童が安心して学校生活を送れるよう取り組んできた。「学校は、じめのない学級・学校づくり」に努めていると感じている保護者は0.8%増で9割超えとなった。	B	B	「自己肯定感・有用感」が経年的な課題であるが、人権週間や学校生活での課題を児童が見つめ直し、対応策を考え、児童議会で共有しながら全校で取り組むことを通じて全体の意識を高めたりするなど、児童の主体性を重視しながら取り組んできた成果を感じる。教師側も、毎学期末に自学級の状況をふり取り、改善に向けた次学期の取組の計画を立てるなどCとAの充実を図ったことも効果的であった。次年度も主体性の育成や見通しのある意図的な取組を充実させたい。	
2 知(確かな 学力の 育成)	【児童③82%↑】【教職員⑤86%↑】【保護者②88.9%↑】 2学期は、授業のまとめを自分の言葉で表現させる等、まとめに重点を置いて指導を行った。その結果、児童は自分なりの言葉でまとめを書くことができるようになった。一方で、振り返りを書く時間が十分に取れていなかった。	B	B	学びを確かなものにするために、まとめ・振り返りを書くための十分な時間を確保するためのタイムマネージメントを意識して授業を行う。	・授業での児童の理解・定着を望む。 ・クロームブックの活用状況を保護者に伝える。 ・子どもも、楽しんで家庭学習に取り組めるよう課題にも工夫をし、保護者に呼びかけを。 ・中学校に向けて、6年生の家庭学習の量を確保する。 ・家庭でも、親子で話し合ったり考え合ったりする機会を大切に、時間を確保したい。 ・授業参観でも、わけや根拠にもとづいて考えている場面、考えを交流する場面が見られた。
	【児童④86%↑】【保護者③71.5%↑】【教職員⑥86%↑】 家庭学習強化週間などにより多少家庭学習の定着ができたと考えられる。2学期は活用問題にも取り組んだ。授業の中で、基礎・基本の十分な定着を図ることが課題である。	B	B	・児童が考えたいくなる問題や課題提示の仕方を工夫する。 ・児童の学習意欲をより高めるため、週に1回のゴクリを行う。また、週に1回の言語技術トレーニングを行い、より基礎基本の定着と活用力の育成に努めていく。	
	【児童⑤85%↑】【教職員⑥94%↑】 1学期よりペアやグループ活動を取り入れる機会が増えたことで、学び合いの授業を構築することができた。	B	B	引き続き、ペアやグループ活動を効果的に取り入れて、考えを深めることを重視した授業づくりによって、言語活動を活性化し活用力を高める場をしっかりと確保していきたい。	
	【児童⑥74%↑】【教職員⑦86%↑】 2学期は、「わけ(理由)」や「もと(根拠)」を意識した話し方を授業で実践したが、特定の児童の発表に偏ってしまい、全員が話し方を意識していたとは言えなかった。	B	B	「わけ」や「もと」を意識した話し方をした児童をモデルとし、他の児童にも同じように発表させたり、児童がその文を活用して自分なりの言い方で表現したりするなどして、全体に広める工夫をしていく。	
3 徳(豊かな 心の 育成)	【児童⑦90%↑】【教職員⑩100%↑】 QUを活用して各学級の状況を分析し、2学期・3学期の学級経営方針を立てた。それに基づき、それぞれの学級が状況に応じた学級経営をすることができた。また、報告・連絡・相談もスムーズに行われ、様々な状況に適切に対応できた。	B	A	QUの結果を見ると、どの学級も良い方向へ進んでいる。よりよい取組の継続と積み重ねを意識して、次年度へ進級させるという視点で各学級の経営を行う。また、一年の学級経営を総括と個別の配慮事項について、次年度への申し送りを作成する。	
	【児童⑧90%↑】【教職員アンケート⑩100%↑】 コロナ対応のために、学年交流が十分できなかったが、縦割り清掃の取組や委員会活動において、主体的に取り組むことができた。先生方が意識的に意見や意欲を大切に、児童の活動を見守り、補助できた。	B	A	送る会や卒業式準備、3月の清掃リーダー引継ぎを通して、今までの6年生のリーダーの姿を5年生がしっかりと受け継ぎ、次年度の発足に向けて意欲を持たせる。	・職員間の情報共有がよくできているようである。福岡小の良い面であるので、継続してほしい。
	【児童⑨84%↑】【教職員⑫100%↑】 各部会で研究授業の反省を行い、発問を吟味する大切さを共有したことにより、教材研究の段階で発問を精選して授業を進めることができ、個に返す時間も十分にすることができた。それにより、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりする児童が増えた。	B	A	子どもが考えたいくなる課題提示の仕方や子どもの深い学びにつながる構造的な板書の工夫等、課題が出てきた。教員同士で課題を共有して授業改善に努めた。児童がより道徳的価値を自分事として捉えられるように、学校行事と関連させながら教材を考えていく。	・読書においては、質の向上をめざし、家庭・地域も一丸となって取り組むことを期待する。
	【児童⑩76%↑】【教職員⑬95%↑】 昼の読み聞かせに加え、全学級において朝の時間に図書ボランティアの方々へ読み聞かせをしていただく機会を設けた。また、図書室での様々なイベントが、多様な本を読むきっかけになったと考えられる。ただ、イベント情報の共有が不十分であり、児童に伝わり切っていない部分もあった。	B	B	引き続き調べ学習や並行読書で図書室を活用し、より教科内容と関連した図書を充実させる。コロナ禍で図書室の利用が制限されるなかでも、読み聞かせの機会を設けたり、ねらいに沿ったイベントを行ったりして児童が様々な本に触れられるよう、検討していく。	
4 体(健やかな 身体 の 育成)	【児童⑪91%↑】【教職員⑭91%↑】 鉄棒の取り組みでは、全校で同じカードを用いたことで、技の見通しや自分の力に合った技を選択することができた。また持久走では学年に応じて、周回数や記録したり、タイムを記録したりすることで、主体的に取り組んでいる児童も見られた。	A	A	体育では得意な児童が目立ちがちだが、あまり得意ではない児童も個々に応じた目標を立て、達成感を味わうことができるような取り組みを行うことが大切だと感じた。また意欲的に取り組めるよう、わからない技や挑戦したい技が確認できるように、動画を撮るなどICTなどを効果的に活用していく必要がある。	・子ども達の頑張りに、教師のほめ言葉をさらに望む。 ・生活リズムは家庭の責任で、みな想いは同じ。取組の用紙を配布するだけでも効果がある。 ・児童アンケートでは、ネットトラブルについては5年生から対象になっているが、現状を考えると、対象学年を下げ、ゲーム・スマホやSNSとのよい付き合い方を早くから学ぶ必要がある。
	【児童⑫93%↑】【教職員⑮94%↑】 ブランクの正しい乗り方については広報・体育委員会で作成した動画が児童の安全への意識を高めた。また、鉄棒やなわとび・持久走については休み時間に職員が見守ったことがアンケート結果に反映している。	A	A	鉄棒・なわとび・持久走間の取り組みについては、どこまで強制力をもつのか(例えば、学習の課題が終わらない児童はどうするのか、図書室・体育館使用割と重なる場合はどうするのかなど)配慮がある。休み時間の見守りについては、職員が限目の授業に遅れないよう、誰が、いつ、どこで行うかについて検討していく必要がある。	
	【保護者④89.0%↑】【⑦77.4%↑】 歯磨き週間において家庭での染め出しを行うことで、生活習慣づくりは保護者と一緒に取り組んだ。朝の歯磨きについて、「時間がなくて行なえない」という意見から、早起きの必要性を実感する児童も多かった。また、家庭学習強化週間に生活リズムの項目を追加し、意識の向上を図ったが、アンケートの「生活リズムを整える工夫をしている」割合は5.2%という結果となった。	B	B	コロナ禍で学校での指導が十分できない部めんがあるため、家庭との連携が不可欠である。また、自宅で過ごす時間の増加やICTの活用などに伴い、メディアに触れる時間が増加すると考えられるため、メディアコントロールを行う必要性を感じた。早寝・早起きに関する取り組みを家庭学習強化週間に合わせて今後も継続して行い、児童・保護者に働きかけていく。	
5 家庭・ 地域との 連携	【保護者⑤88.7%↑】【⑩96.7%↑】【教職員⑯88%↑】 2学期によりやく分散型ではあるが、授業参観を実施でき、参加率も上々であった。また、オンライン訓練ではすべての家庭に協力いただけた。6年生を送る会や卒業式も制約がかかる中、保護者や地域の方に子供たちの活躍を見ていただけないことにもどかしさを感じざるを得ない現状がある。挨拶に関しては経年的な課題であり、改善が求められる。	B	B	PTA総会や地区懇談会は実施できなかったが、役員会・実行委員会では年度当初を除き、ほぼ予定通り開催できた。夏季の登下校時の一時休憩所の設置等においても町内会や地区PTAの協力を得られ、水分持参等では各家庭の理解と協力も得られた。挨拶については課題が経年的に見られるが、家庭における「思いやりを大切にされた会話」については大部分の家庭が心がけており、心強い。家庭における生活リズムや家庭学習については、工夫しながら継続的に協力を求めていきたい。	・新年度に向けて、5年生(新6年生)のリーダー性や積極性を引き出してほしい。 ・各町でも、町の歴史やよいところを伝えていき、他の町の良さも知れるとよい。 ・地域で子どもの姿を見かけなくなっている。地域で、元気な様子を見せる場をつくりたい。
	【児童⑰79%↑】【教職員⑲95%↑】 児童・教職員ともにアンケート値が上昇している。児童の地域学習に関しては、コロナ禍の中、更なる配慮や工夫をしながら学びを深めたり、地域の方への感謝を実感したりすることが求められる。CS協議会や町内会長会は実施できており、次年度は「ラジオ体操を活用した地域の活性化」の充実や「防災への協働」を実現したい。	B	B	クラブ活動や読み聞かせは、回数が増えたが、徐々に平常並みに取り組めるようになってきている。コロナ禍の中ではあるが、更生保護女性会による検温確認への協力や、市教委の配慮による低学年への学習支援スタッフの派遣、大学生による学習支援、保護者とCS委員による校内除菌活動など、例年にはない外部との協力体制が構築された。感謝しながら次年度も町内会やCS、保護者との協力体制を再構築して子供たちの健全な育成に取り組むたい。	・コロナ禍でも、活動が多くできたことはよかった。人と人のかかわりが少なくなっている中、コミュニケーション能力をつけさせるための方法を工夫する必要がある。